

ダニ媒介感染症 が連続して発生して います！！



- ウイルスや病原体をもったマダニに咬まれることで、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病などを発症する場合があります、季節としては初夏から秋にかけて多く発生しています。
- 特に令和 7 年は、SFTS が、**豊田市内で 5 件発生**しており、過去にない多さとなっています。※7 月 22 日時点
- SFTS や日本紅斑熱の原因となるマダニは、野山、山林、田畑などに多く生息しており、対策としては、**マダニに咬まれないことが大切**です。ポイントは裏面をご覧ください。
- なお、ダニ媒介感染症は、犬や猫等の動物も感染するため、ダニを介さずに動物から人に直接感染する場合があります。

マダニに咬まれた場合

- ・マダニの多くは、長時間（10 日間以上のこともある）吸血します。吸血中のダニを無理に取り除くと化膿することがあるので、受診し適切な処置を受けましょう。
- ・数週間程度は、体調の変化に注意し、発熱、倦怠感などがあれば、早めに受診し、医師に草刈りなどの行動歴を伝えてください。



<引用>

厚生労働省「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A」

<引用>R7 年 8 月 7 日更新

国立健康危機管理研究機構
「マダニ対策、いまできること」

<問合せ>豊田市感染症予防課

電話 (0565) 34-6180

FAX (0565) 34-6929

Email: hokansen@city.toyota.aichi.jp

「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

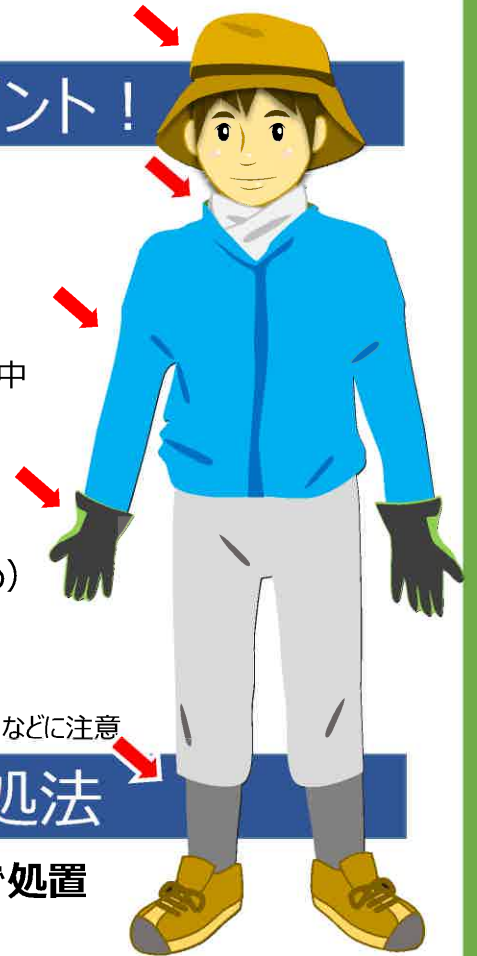
⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

＊ 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

＊ 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



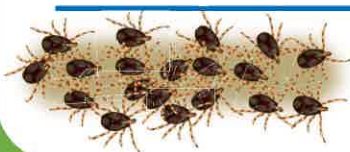
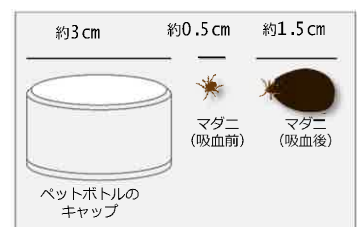
ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

